

図書館へ行こう！

発表！校内読書旬間記念・2016読書に関する標語大賞

大賞(中)	だから、本を読むんだ。	2-3	永田 渉
大賞(高)	「成功」の原点は読書だった。	1 A	山田 陽登

入 賞 作 品 一 覧		
早寝・早起き・朝読書	1-1	小嶋 花
この本に、きめた！！	1-2	岡 直人
まず、1ページ。	1-3	馬籠 七海
広がる世界、つながる想い	2-1	八重尾 紗菜
どきどき、わくわく、用意してます。	2-2	野村 優花
本を読んで人事を尽くせ！	3-1	宮川 峻太朗
今日は どんな人生を生きようか。	3-2	東郷 早紀
読めば世界が見える、もっと読めば未来が見える。	3-3	中村 日向子
ブルータス、お前も読書か。	1B	今村 俊太
目の保養と脳の保養を	1C	土屋 凜
ページをめくる音が好きです。	1D	岩下 美結
広げよう、文学と未来の私	2A	長田 楓香
今の流行りは 読書系男子	2B	谷水 柊太
あの1冊に、また会いたい。	2C	成清 麗香
見る、読む、知る。	2D	井上 寛大
過去を読もう、未来は変えられる。	3A	井上 美紅
本は地球を救う	3B	松村 かえで
パーフェクト、読書。	3C	永田 百佳
本読まず 語彙力なくて 困ってる	3D	壺岐 佳高

読書に関する標語審査会へ報告

審査会場：図書館閲覧室

○【中学生の標語を審査】高校図書委員会：十一月二日(5:20)。
 ○【高校生の標語を審査】中学図書委員会：十一月四日(6:20)。
 へ審査方法へすべての応募作品を委員全員が読み、よいと思う標語に一人1点ずつ点数を入れていく加算法。

今年の標語審査会は、例年どおり 流行語にちなんで「本の名は」「君の本は」あるいは「本パイナップル」などの応募が多いなかで行われました。図書委員全員が1枚1枚すべてに目を通し、高校生のユーモアたっぷりの表現や、中学生のすなおなフレーズに感心しながら、ときどきと真剣に選定しました。



審査の結果、大賞に選ばれたのは、**2-3永田君・1 A山田君**です。おめでとうございます!! 入賞に選ばれた作品もあわせてご紹介します。今年もたくさんのご協力ありがとうございました。

校内読書週間ポスターコンクール結果発表!!

毎年恒例の「読書週間ポスター」コンクール。先日の審査で、今年度の最優秀作品には1-1矢野瑞希さんの作品が選ばれました。おめでとうございます！ 優秀賞以下の結果は、右記のとおりです。どのクラスも力作ぞろい、とても楽しい審査となりました。



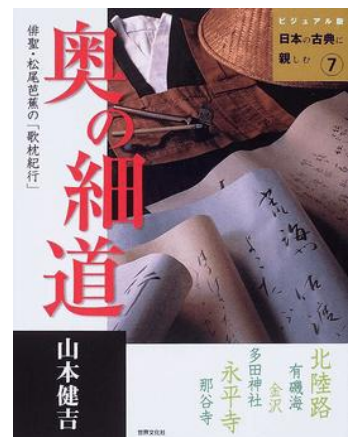
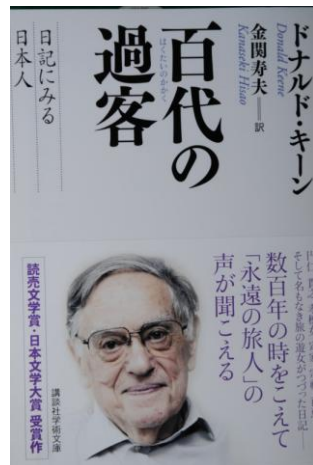
↑1-3 田村凌大君 **図書館賞** ↑1-2 小嶋咲子さん

この2作品は、図書館に展示してあります。

最優秀賞	1-1	矢野 瑞希
優秀賞	1-1	竹田 瑞
優秀賞	1-2	森山 大誠
優秀賞	1-3	久地浦 萌
佳作	1-1	隈本 大智
佳作	1-2	菅 純成
佳作	1-2	福田 駿太郎
佳作	1-2	若松 倫妃
佳作	1-3	柳田 蒼太
佳作	1-3	平本 花凜
図書館賞	1-2	小嶋 咲子
図書館賞	1-3	田村 凌大

図書館特別展示 『おくのほそ道展』～150日間のねばろ一会～

松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅に出たのは1689年の五月。それから五か月をかけて2,400kmを歩き、十月に旅を終えています。単純に平均すると一日あたり16kmの歩行です。東京を出発して東北地方の山々を越え、日本海に出て海沿いを行脚しながら琵琶湖の近くで旅を終えるというハードな道のりです。今のように舗装された道は無く、奥羽山脈や越後路の険しさは想像に難くありません。また途中で体調を悪くし休んだ記録があることから、歩けなかった日も多くありました。そのとき芭蕉は四十六歳で、人生四十年と言われていた当時を考えると高齢といえる年齢でした。



このようなデータから、『おくのほそ道』については様々な都市伝説がささやかれています。たとえば芭蕉は幕府隠密の忍者だったとか、はたまた隠れキリシタンだったとか…。しかしながらいずれにしても芭蕉は、ただ歩く＝移動するだけでなく、その行程を紀行文として記録し、62句もの俳句を詠んだのですから、文学史に名を残す偉大な俳人と位置づけられるでしょう。

『おくのほそ道』展は、図書館入り口で展示中です。上記の図書をはじめ、たくさんの資料を展示しています。